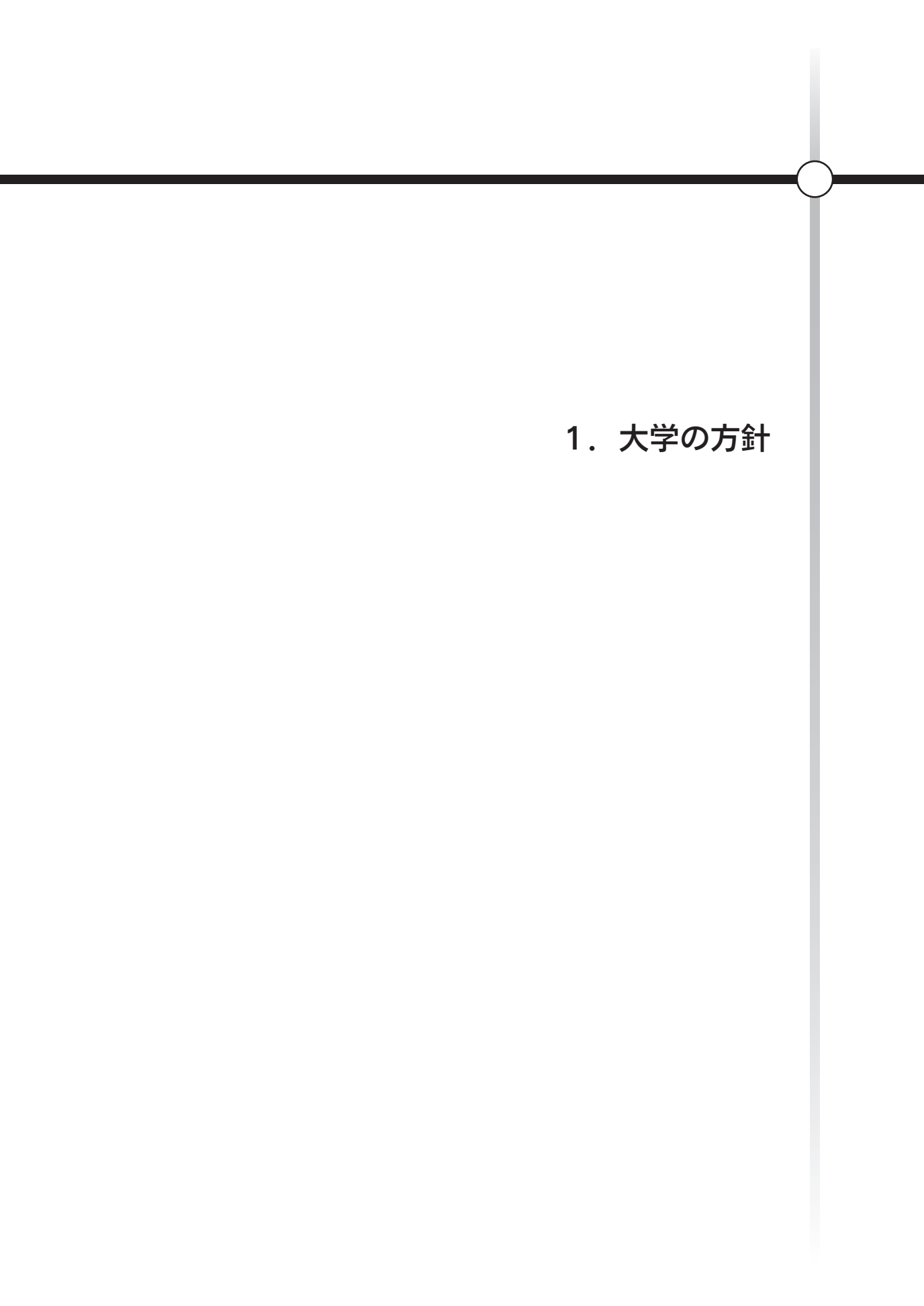




1. 大学の方針

人材養成の目的【大学全体】

東海学園大学は、勤儉誠実の信念と共生（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を核とし、社会の発展と文化の向上に寄与できるよう、総合的教養教育と専門教育を通して幅広い職業人の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【大学全体】

1. 「知識・理解」

1. 自然と社会と人間とのかかわりに関心を持ち、幅広い知識と教養を身に付けることができる。
2. それぞれの専門分野における基本的な知識を体系的に身に付けることができる。
3. 世界の多様な文化、思想、歴史について幅広く理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語及び外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、話すことができる。
2. それぞれの専門分野について、問題を発見することができる。
3. 情報・資料の収集、普遍的な尺度や数量的指標を用いた分析、論理的な思考を用いて問題を解決し、その結果を表現することができる。

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に取り組むことができる。
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、共に生かし合い仕事や研究を進めることができる。
3. 職業人としての倫理観・使命感・責任感を身に付け、社会に貢献することができる。

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

卒業論文や卒業研究等の作成を通して、自らが立てた新たな課題を解決することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【大学全体】

1. カリキュラム（教育課程）は、全学部とも「全学共通科目群」「専門科目群」「演習科目群」の3つの科目群によって構成する。なお、その他に「免許・資格関連科目群」がある。
2. 「全学共通科目群」は、全学部で共通に開講する科目群であり、「ともいき人間教育」「ともいき教養教育」「ともいき実践教育」を柱に、「日本語」「英語」「情報」「身体教育」「外国語コミュニケーション」「キャリア形成」の各分野の科目によって構成する。
3. 「専門科目群」では、各学部の専門分野における「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の修得・深化をめざす科目を体系的に配置する。

4. 「演習科目群」では、1年次から2年次において幅広い教養の獲得をめざす基礎的演習を開講する。また、3年次から4年次において専門的知識の修得をめざすとともに、4年間の学習成果のまとめとして卒業論文や卒業研究などを作成する演習を開講する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【全学共通科目群】

1. 「知識・理解」

1. 「共生」と「勤儉誠実」の考え方を理解し、それらに基づいた人間観や自然観、及び価値観を身に付けることができる。
2. 国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化について理解することができる。
3. 人文、社会、自然等の各分野に関連する事柄について、「持続可能な開発目標」（SDGs）をキーワードに体系的・総合的に理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語を用いて、的確に読み、書き、聞き、話すことができる力を身に付けることができる。
2. 国際社会において、的確にコミュニケーションを図ることができる英語等の語学力を身に付けることができる。
3. 情報通信技術を用いて、情報を入手し、分析し、活用するとともに、有益な情報を社会に発信することができる。
4. SDGsをキーワードに、人が人としてよりよく生きていくために、修得した知識を基に、自ら問題を発見し、科学的、及び総合的に問題を捉え、解決方法を見出す汎用的能力を身に付けることができる。

3. 「態度・志向性」

1. 健康づくりの習慣や、自己管理能力などの態度を身に付け、自分を律し、何事にも誠実に最後まで取り組むことができる。
2. 社会人として責任ある態度を身に付けるとともに、様々な価値観や視点から、柔軟かつ論理的思考を基に行動することができる。
3. SDGsで掲げられている課題に対し、自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、持続可能な社会を創造する力を身に付けることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【全学共通科目群】

1. 「ともいき人間教育」の分野では、仏教の立場から「共生（ともいき）」について考察する。具体的には、環境や他者の存在により自己が活かされていること、自己中心的な在り方の反省、自己能力の惜しみない提供、相互補完の精神などを学ぶ。これらを通して、共生と勤儉

誠実の考え方を身に付ける。

2. 「ともいき教養教育」の分野では、「共生（ともいき）」の精神のもと、人文・社会・自然科学の領域横断的・多面的な思考力を修得し、持続可能な社会発展のため、自分たちに何ができるかを主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力を身に付ける。
3. 「ともいき実践教育」の分野では、SDGsをキーワードとした地域社会における実践的な体験やボランティア、海外留学・研修を通して、多文化共生に対する理解を深め、自ら考え行動する力を身に付ける。また、日本文化を通して歴史や伝統・文化について理解を深めるとともに、SDGsを学ぶ。
4. 「日本語」の分野では、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す能力を身に付ける。
5. 「英語」の分野では、日常会話レベルの会話能力を身に付けるとともに、十分な読み、書き能力も身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
6. 「情報」の分野では、情報通信技術を用いて多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身に付ける。
7. 「身体教育」の分野では、スポーツを通じた健康づくりの習慣や、自己管理力・チームワーク・勤儉誠実・共生などの態度を身に付ける。
8. 「外国語コミュニケーション」の分野では、各言語での日常会話レベルの会話能力を身に付け、基礎的な読み、書き能力を身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
9. 「キャリア形成」の分野では、職業人として働くことの意義を理解し、社会の発展に貢献する態度を身に付ける。

人材養成の目的【心理学部】

心理学部は、心に関する科学的な知識ならびに本学の建学の精神である「共生（ともいき）」の理念を基礎とし、自己、他者、社会等に関する諸問題を体系的に理解できる人材を養成する。また、個人の対人的問題や心理的問題など、心に関連する諸問題が発生する要因と機序を的確に分析し、それらの解決策を提起し実行できる人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【心理学部】

1. 「知識・理解」

1. 学際的な視点に立った人間理解に必要な幅広い教養を身に付けている。
2. 心に関する科学的な理解を基礎とした、自己、他者、社会等に関する体系的な知識を身に付けている。
3. 個人の対人的問題や心理的問題など、心に関連する諸問題が発生する要因と機序を的確に分析し、解決策を提起し、実行するための知識と理解力をそなえている。

2. 「汎用的技能」

1. 的確に読み、書き、聞き、話すことができ、効果的なプレゼンテーションができる（コミュニケーション・スキル）。
2. 人間の心理と行動の関わり、社会と個人の心理等に生じる諸問題を普遍的な基準や数量的指標、統計的手法を用いて理解し、表現することができる（数量的スキル）。
3. 情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用するとともに、情報を発信できる（情報リテラシー）。
4. 心理学を中心とした知識や情報を論理的に分析し、表現することができる（論理的思考力）。
5. 心に関する分野を中心に問題を発見するとともに、さまざまな情報に基づいて専門的な見地からこれらの問題を解決できる（問題解決力）。

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる（自己管理力・勤儉誠実）。
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合い仕事や研究を進めることができる（チームワーク・共生）。
3. 悩みがある人が心を開いて相談できる人材となり、チーム・組織のなかで、リーダーシップを取ることができる（かかわり・リーダーシップ）。
4. 専門的職業人としての倫理観・使命感を身に付けるとともに、国際的な活動や仕事に取り組み、社会に貢献する意欲と目的意識を持ち、国際人として責任のある行動をとることができる（倫理観・社会的責任）。

5. こころの専門家として、心理的な問題に積極的にアプローチする意欲、使命感、専門的技術を身に付け、「共生（ともいき）」の理念を実践できる。

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

1. 自ら集めた多様なデータ・資料・情報を統合し、客観的に分析することで、対象の本質を明らかにするとともに、さらなる問題点や次になすべき課題を発見することができる。
2. 卒業研究等の実施、卒業論文等の作成を通して、自らが設定した新たな課題を解決し、その過程を論理的に表現できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【心理学部】

心理学部は、現実問題に対する分析能力・解決能力の養成を重視する教育方針から、そのカリキュラムにおいて、心理学の基本的な視点を獲得するための基礎系科目と、実験実習や心理統計法を含む方法論系科目を充実させる。この教育方針は、同時に、社会生活で求められる対人的活動（グループワーク、プレゼンテーション、コミュニケーション）のトレーニングを兼ねることで、総合的な人間力を高めることも目的としている。

さらに、心理学系初級国家資格である公認心理師に対応した学部カリキュラムを編成し、心理学専門職養成の土台となる基礎教育を充実させている。これにより、心理学を中心とした人間理解の基礎の確実な習得をはかるとともに、広く深い心理学的知識を提供し、高い学士力を養成する。

専門科目は「基礎科目」「基幹科目」「展開応用科目」によって構成されている。「基礎科目」は社会科学全般の幅広い基礎的知識を獲得するために、2年次に科目が配置されている。「基幹科目」は、心理学に関する知識を網羅して獲得するために、心理学の諸領域に対応した科目が開講されている。これらは配当年次が上がるにつれて、より専門的な知識を獲得するよう配置されている。「展開応用科目」では、より応用的な領域の科目を配置し、現実社会における問題の分析・解決に必要な知識を養成していく。また「基幹科目」「展開応用科目」の双方において、心理学の研究法を体系的に身に付けるために、実験・調査・面接・観察などの方法の習得を目指す科目を開講している。

以上のように心理学部では、4年間を通じた演習による一貫した教育体制の中で、導入と基礎作りの1年次、方法論習得の2年次、専門知識を幅広く深化させる3年次、総まとめの4年次と、段階的に高い学士力を養成すべくカリキュラムを編成している。

それに加えて、資格関連では「認定心理士」「認定心理士（心理調査）」「社会調査士」「准学校心理士」に対応した科目を開講しており、各々の資格取得を目指すことが可能である。また「公認心理師（学部カリキュラム）」にも対応しており、心理職を目指す進路も準備されている。